

令和7年度 かほく市立宇ノ気小学校 学校評価計画書 №.1

重点目標	自己評価								改善策
	具体的な取組	主担当	評価の観点		到達度判断基準	判定基準	前期 到達度	後期 達成度	
1 新しい時代に必要となる資質・能力の育成	① 教科等の見方・考え方をふまえた共通の軸、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた授業を工夫する。	研究主任	努力	児童が学び方を選択して課題を解決することができるよう、学期ごとに計画した手立てをもとに授業づくりの工夫に努めている。	教員アンケート 4よくあてはまる 3だいたいあてはまる 2あまりあてはまらない 1あてはまらない	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	100 A	100 A	引き続き、学年会や教科会を中心に教材研究をしたり、他学年や他校の実践を参考にしたりしながら、授業づくりの工夫に努める。
			成果	学期ごとに設定した「自指す児童の姿」に達成できたか。	教員アンケート 4よくあてはまる 3だいたいあてはまる 2あまりあてはまらない 1あてはまらない	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	97.1 A	93.9 A	毎月の学年会で、学期ごとに設定した「自指す児童の姿」の達成度について話し合い、児童が見通しや目的意識をもって授業に取り組んでいるかを確認する。
			満足	友達と相談したり、自分でやり方を決めたりする授業を楽しんでいる。	児童アンケート 4よくあてはまる 3だいたいあてはまる 2あまりあてはまらない 1あてはまらない	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	85.2 B	89.4 B	友達と交流した後の学習の深まりが意識できるように、学習の振り返りだけでなく、学び方について振り返りの場も大切にしていく。
			満足	【新】お子さんは授業が楽しいと言っている。	保護者アンケート 4よくあてはまる 3だいたいあてはまる 2あまりあてはまらない 1あてはまらない	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	77.2 C	— —	「できる、できない」や「分かる、分からない」ではなく、自分の変容や努力の過程を「楽しい」と感じられるように、声掛けをしながら価値づけていく。
	② アウトプットさせることで、「伝える力」を育成する。	研究主任 図書担当	努力	子供の思いを表現する場や学んだことを伝える場を設定している。	教員アンケート 4よくあてはまる 3だいたいあてはまる 2あまりあてはまらない 1あてはまらない	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	100 A	93.9 A	引き続き、学習形態(ペア、グループ、全体等)や発表方法(ノートに書いて発表、端末で発表等)を児童に選択させながら、友達に伝える場を設けていく。
			成果	【新】授業で学んだことを、自分の言葉で表現している。	児童アンケート 4よくあてはまる 3だいたいあてはまる 2あまりあてはまらない 1あてはまらない	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	76.7 C	— —	生徒指導と連携して、「何を話しても大丈夫」という安心安全な風土を作り、朝の会や帰りの会等で、簡単な話題を与え、人前で自由に話すことに慣れさせる。
			努力	【新】並行読書や調べ学習など、授業で図書館や学校司書を活用し、読書の質の向上に努めている。	教員アンケート 4よくあてはまる 3だいたいあてはまる 2あまりあてはまらない 1あてはまらない	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	93.3 A	— —	引き続き、学校司書と連携を取り、授業での図書の活用、読書の推進に努めていく。
			満足	【新】お子さんは、家で読書をしている。	保護者アンケート 4よくあてはまる 3だいたいあてはまる 2あまりあてはまらない 1あてはまらない	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	40.4 D	— —	「読書ノート」の活用を呼びかけ、週末の宿題として読書を出す、という4月の提案を再確認する
			成果	【新】読書が好きである。	児童アンケート 4よくあてはまる 3だいたいあてはまる 2あまりあてはまらない 1あてはまらない	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	78.4 C	— —	朝読書と週末読書の実施を確認とともに、本の紹介や委員会のイベント、読書目標達成児童への表彰等で読書に対する関心・意欲を高めていく。
	③ 学習を支える発達指示の生徒指導を推進する。(生徒指導の4つの視点、適切な見取りと指導・支援)	主幹 研究主任 生徒指導	努力	児童が思いを伝え合えるよう、生徒指導の視点(自己存在感・共感の人間関係・自己決定・安全感定な風土)の実践を心掛けている。	教員アンケート 4よくあてはまる 3だいたいあてはまる 2あまりあてはまらない 1あてはまらない	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	100 A	97.0 A	一人一人の意見や行動を認め、よがが発揮できる場(デンケンタイム)や協力しながら解決していく(寸心タイム)を効果的に取り入れ、活躍できる場を保障する。
			満足	学校では、勉強を丁寧に教えている。	保護者アンケート 4よくあてはまる 3だいたいあてはまる 2あまりあてはまらない 1あてはまらない	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	87.5 B	91.0 A	校内研修を通じ、指導技術の向上を目指していく。授業では、児童のつまずきを予測し、丁寧にフォローできるように指導していく。
	④ 授業や家庭学習でICTを効果的に活用する。	GIGA構想推進リーダー	努力	授業において、協働的な学習を進めたり児童の考え方や立場を明確にし、学びを深める手段として、ICT・一人一台端末の活用に努めている。	教員アンケート 4よくあてはまる 3だいたいあてはまる 2あまりあてはまらない 1あてはまらない	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	88.6 B	100 A	公開授業の機会などを生かして、端末活用について活発に話し合うことができた。実践報告を行い、活用法を広める機会を充実させていく。
学校関係者評価	情報社会に対応する子供をつくろうとする国が、弊害が出てくるとICTの使い方を規制したり、抑えようとしているのはへんな話ではないか。国がもっとICTの進め方について考えていく必要がある。								

重点目標		自己評価							改善策
		具体的な取組	主担当	評価の観点		到達度判断基準	判定基準	前期 到達度	
① 相手のよさを見つけ、協力し合う集団づくりに努める ② 自信と意欲を育てるための「活躍・挑戦できる場」の設定 ③ 確かな児童理解に努め、個に応じた指導・支援を迅速かつ組織的に行う									
						児童アンケート	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	95.0	91.0
						4よくあてはまる 3だいたいあてはまる	2あまりあてはまらない 1あてはまらない	A	A
						教員アンケート	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	100	—
						4よくあてはまる 3だいたいあてはまる	2あまりあてはまらない 1あてはまらない		
						教員アンケート	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	100	100
						4よくあてはまる 3だいたいあてはまる	2あまりあてはまらない 1あてはまらない	A	A
						児童アンケート	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	97.0	89.0
						4よくあてはまる 3だいたいあてはまる	2あまりあてはまらない 1あてはまらない		
						保護者アンケート	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	86.3	86.0
						4よくあてはまる 3だいたいあてはまる	2あまりあてはまらない 1あてはまらない	B	B
						教員アンケート	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	100	100
						4よくあてはまる 3だいたいあてはまる	2あまりあてはまらない 1あてはまらない		
						児童アンケート	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	90.4	88.6
						4よくあてはまる 3だいたいあてはまる	2あまりあてはまらない 1あてはまらない	A	B
						保護者アンケート	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	87.1	86.5
						4よくあてはまる 3だいたいあてはまる	2あまりあてはまらない 1あてはまらない		
						児童アンケート	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	96.6	96.3
						4よくあてはまる 3だいたいあてはまる	2あまりあてはまらない 1あてはまらない	A	A
						教員アンケート	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	100	100
						4よくあてはまる 3だいたいあてはまる	2あまりあてはまらない 1あてはまらない		
学校関係者評価	いじめはいけないことだと理解している児童が多く安心した。自分の子だけでなく、みんなで見守っていく環境にしていきたい。不登校に関しては、心の要因があり、複雑化している。まずは、学校へ来てもらうことが大切である。								

令和7年度 かほく市立宇ノ気小学校 学校評価計画書 No.3

重点目標		自己評価							改善策
		具体的取組	主担当	評価の観点	到達度判断基準		判定基準	前期 到達度	
3 豊かな心の教育の充実	① 道徳の時間を中心とした道徳教育の充実に努める	道徳推進教師	努力	学年共通道徳を行い、「考え方、議論する道徳」の実践に努めている。	教員アンケート	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70% 以上80%未満 D70%未満	100	96.0	月一回の学年会の時間を活用や、学年掲示板への「今月の道徳」の掲示を通して、学年共通道徳の実践を今後も進めていく。
				4よくあてはまる 3だいたいあてはまる 1あてはまらない	A	A			
				児童アンケート	89.3	89.0			
			成果	道徳の授業を通して、よりよい生き方について考えることができた。	4よくあてはまる 3だいたいあてはまる 1あてはまらない	B	B	引き続き、授業の終末には、「自己を見つめる」時間を設定し、児童が自分自身の問題として受け止めて振り返られるようにする。	
				教員アンケート	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70% 以上80%未満 D70%未満	100	—		
				4よくあてはまる 3だいたいあてはまる 1あてはまらない	A	—			
		努力	【新】道徳の授業等を通して、将来の夢や目標をもつことができる授業や声掛けを行っている。	児童アンケート	84.5	82.2	道徳や総合、学活の時間等を通して、児童がこれからの生き方を考えられるように、年間計画をもとに指導していく。		
				4よくあてはまる 3だいたいあてはまる 1あてはまらない	B	B			
				児童アンケート	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70% 以上80%未満 D70%未満	66.9		67.2	
				4よくあてはまる 3だいたいあてはまる 1あてはまらない	D	D			
		成果	将来の夢や目標をもっている。	保護者アンケート	92.8	92.0	道徳の授業の様子をホームページや学年だよりで発信し、家庭での会話のきっかけを作っていく。		
				4よくあてはまる 3だいたいあてはまる 1あてはまらない	A	A			
				児童アンケート	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70% 以上80%未満 D70%未満	93.1		97.0	
				4よくあてはまる 3だいたいあてはまる 1あてはまらない	A	A			
	② 地域との交流を積極的に行うことで、郷土を愛する心を養う(地域の人・もの・ことと関わる単元を設定し、取り組む)	主幹	成果	児童は、自分の住んでいる地域のよさを感じている。					
				4よくあてはまる 3だいたいあてはまる 1あてはまらない	A	A			
		成果	郷土の自然・人・ものにふれて学ぶ教育活動を積極的に取り入れている。(学期に1回以上)	教員アンケート	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70% 以上80%未満 D70%未満	93.1	97.0	コーディネーターの方との連携を密にしながら地域人材等との関わり合いを通して、自分たちの住んでいる地域のよさを感じられるようにする。150周年記念式典を機に、さらにわがまちのよさを再確認できるようにする。	
				4よくあてはまる 3だいたいあてはまる 1あてはまらない	A	A			
学校関係者評価	「将来の夢や目標を持っている」の項目について、親子で17.6%もの差が出た。家庭での子供との会話の薄さを感じている。子供は家に帰ってからも、習い事・学童など忙しいが、親が思っている以上に子供は自分なりの思いをもっていると思われるので、子供らしい夢を語れるような環境づくりをしていくとよい。								

重点目標	自己評価								改善策
	具体的な取組	主担当	評価の観点		到達度判断基準	判定基準	前期到達度	後期到達度	
4 体力向上と健康・安全教育の充実	① 体力・運動能力の向上に努める	体育担当	努力	【新】体を動かす場の設定を十分に行っている。(45分の授業の8割以上)	教員アンケート 4よくあてはまる 3だいたいあてはまる 2あまりあてはまらない 1あてはまらない	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	92.6 A	—	授業における運動量の確保を、体育たよりやスポーツテストの分析と対応などで、全職員に周知し、継続して、体を動かす場の設定を十分に行っていく。
			努力	スポーチャらしいしかわ、持久走、なわとびに取り組み、体力向上に努めている。	教員アンケート 4よくあてはまる 3だいたいあてはまる 2あまりあてはまらない 1あてはまらない	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	79.2 C	86.0 B	スポーチャラの全校取期間を設定し、実施することで体力向上につなげる。マラソンがんばり運動やなわとび運動も、計画的に実施し体力向上に努める。
			努力	【新】休み時間や体育の時間に進んで体を動かしている。	児童アンケート 4よくあてはまる 3だいたいあてはまる 2あまりあてはまらない 1あてはまらない	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	89.3 B	—	引き続き、休み時間の運動場や体育館、テニスコートの開放を行い、体を動かす環境を設定する。授業では、楽しいと思える運動を紹介して、実践することで、すくんで体を動かしたくなるようにする。
			満足	【新】体育や行事等で体を動かすことを探している。	保護者アンケート 4よくあてはまる 3だいたいあてはまる 2あまりあてはまらない 1あてはまらない	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	93.3 A	—	楽しいと思える運動を授業の中で取り入れることで、体を動かすことの楽しさを感じられるようにする。
	② 食育・健康・安全教育に計画的・継続的に取り組む	養護教諭 栄養教諭 保健主事	成果	年間指導計画に基づいて、保健指導や食育教育を行っている。	教員アンケート 4よくあてはまる 3だいたいあてはまる 2あまりあてはまらない 1あてはまらない	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	93.1 A	93.0 A	保健指導や食育教育は、保健便りや給食便りなどを活用し、担任が児童の実態に応じて指導できるようにする。また、大事なことは校内放送などを使って全校に一斉に指導できるようにする。
			成果	朝食を毎日食べている。	児童アンケート 4よくあてはまる 3だいたいあてはまる 2あまりあてはまらない 1あてはまらない	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	94.3 A	93.2 A	給食便りや給食時の放送の他にも、保健指導の時間にも栄養教諭による朝食についての指導を行っていく。また、必要に応じて個別に家庭との連携を取り、啓発していく。
			努力	姿勢保持、視力低下防止の啓発に取り組んでいる。	教員アンケート 4よくあてはまる 3だいたいあてはまる 2あまりあてはまらない 1あてはまらない	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	97.2 A	100 A	目の愛護テーマに合わせて、アイ愛週間を設定し、アイ愛がんばりカードを家庭に持ち帰り、家庭と連携した取り組みを行う。また、保健便りを活用した保健指導を継続していく。
			成果	メール・ネット等における使用時間【平日】(但し、学習に関係する視聴は除く)	児童アンケート 4 1時間未満 3 1時間～2時間未満 2 2時間～3時間未満 1 3時間以上	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	69.7 D	67.5 D	児童委員会でメール・ネットの使用時間の調査結果について話し合い、児童保健委員会から全校へ健康問題について呼びかける機会を持つようにしていく。
			成果	子供のメール・ネット等における使用時間【平日】(但し、学習に関係する視聴は除く)	保護者アンケート 4 1時間未満 3 1時間～2時間未満 2 2時間～3時間未満 1 3時間以上	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	69.2 D	69.6 D	学校保健委員会でメールやネットの長時間使用について話題を取り上げ、スクールカウンセラーやPTAの方から助言をいただくようにする。また、保健便りやホームページで家庭にも知らせていく。
			努力	火災、地震や水害などの自然災害、不審者等、様々な災害から成績自分の身を守るために、子供たちの判断力や行動力を高める指導に努めている。	教員アンケート 4よくあてはまる 3だいたいあてはまる 2あまりあてはまらない 1あてはまらない	4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	100 A	100 A	引き続き、年間計画に沿って子どもたちに考えさせる指導を行っていく。また、今日的な課題についても、保健安全部で協議し、必要に応じて指導を行う。
学校関係者評価	大人社会がつくり上げたネット社会だが、これから子供たちは、何とかして順応していくほしい。メール・ネット等における使用時間を減らすきっかけとして、学力との相関関係のデータを示し、児童に伝えていくことも重要である。								

令和7年度 かほく市立宇ノ気小学校 学校評価計画書 №5

重点目標		自己評価								改善策	
		具体的取組	主担当	評価の観点		到達度判断基準		判定基準	前期 到達度		
5	信頼される質の高い学校づくり	①自己研鑽に励み、チーム宇ノ気小の一員として連携して職責を遂行する	主幹 教諭	努力	校内外の研修会に積極的に参加し、必要努力に応じて対象となる教職員や全体への研修内容の還元を行っている。	教員アンケート		4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	100	97.0	今後も、職員会議や終会などを利用し、研修後、すぐに還元できるようにしていく。計画的に行い、事前に予定に入れていくことで効果的に行っていくことができるようになる。
						4よくあてはまる 3だいたいあてはまる	2あまりあてはまらない 1あてはまらない		A	A	
		②子供の思いに届く適切な指導を行う	教頭	努力	学校に、安心して通うことができている。	児童アンケート		4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	97.0	89.0	・人間関係作りのエンカウンター等を積極的に行い、児童の居場所づくりに努めていく。 ・「わかった」、「できた」を実感できる授業、達成感をもてる行事になるよう教材研究等の時間を確保する。
						4よくあてはまる 3だいたいあてはまる	2あまりあてはまらない 1あてはまらない		A	B	
				努力	体罰や行き過ぎた不適切な言動を行うことなく、子供や保護者の心に寄り添った指導や対応を行っている。	教員アンケート		4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	97.2	100	・教職員の信用を失うような言動については、今後も適宜確認・指導していく。 ・ゆとりをもった指導ができるように見通しをもった授業づくり等ができる体制をつくりていく。
				満足	相談事があるとき、学校は相談にのってくれる。	保護者アンケート			A	A	
		③ホームページのこまめな更新等を通して学校の情報を積極的に発信する	主幹	努力	本校における教育活動の内容や学力調査等の結果をHP・各種たよりを活用し、保護者や地域への情報発信に努めている。	教員アンケート		4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	84.8	88.0	・児童、保護者の困りごとに対しては、丁寧に対応すること、一人で抱え込まずに管理職・生徒指導主事と連携をとる体制を強化する。 ・スクールカウンセラー、生徒指導サポートーと連携を深め、よりよい方策を考えていく。
		4よくあてはまる 3だいたいあてはまる	2あまりあてはまらない 1あてはまらない	B	B						
6	人材育成と教職員の働き方改革の徹底	①学校運営への参画意識を高める	教頭	努力	一人一人が学級・学年・級外としての担当業務や分掌の役割を適切に果たし、特に若手においては、積極的に様々な仕事にチャレンジしようとしている。	教員アンケート		4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	100	94.0	引き続き、職員会後の学年会でHPについての計画を立てることで、保護者や地域への情報発信に努めることができるようになる。
		4よくあてはまる 3だいたいあてはまる				2あまりあてはまらない 1あてはまらない	A		A		
		②教職員の時間外勤務時間の縮減に努める		成果	毎週水曜日には定時で退校できるように努め、会議や業務の効率化を目指し、時間外勤務時間の縮減を図る。	時間外勤務が月平均45時間を超える割合が A 0%以下 B 20%以下 C 30%以下 D 40%以下		4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	100	100	・担当業務のふりかえりをし、2学期からの役割を確実に改善していく。 ・若手が積極的に意見を出したり、行動できるような組織づくりをしていく。
		A		A							
学校関係者評価		学校外の研修について、平日だと子供への影響があるのではないか。うまくバランスをとらないと、残業が増えてしまってはいけない。研修会の回数も考えていかねばならない。									